

特集 「編集委員 2007 年の抱負」

地球の軌道を変えたかった園児

堤 富士雄 (財) 電力中央研究所



幼稚園を卒園するとき、先生達が記念につくってくれたガリ版の小冊子がある。そこには卒園する子供達が「将来の夢」を書いている。例えば、ある友人は「マットになりたい」と書いている。これはもちろん、体育の授業で使うマットや、床に敷くマットになって、人に踏みつけにされたい、という自虐的な夢ではなくて、当時のウルトラマンシリーズに出てくる地球防衛隊の名前がマットなのだった。

さて私は何と書いたのかな、と思って探すと「地球の軌道を変えてみたい」とある。なんだ、これは？ 子供向けの科学読み物で聞きかじったことを書いたのか、と思ったが、その謎が先日解けた。

テレビでウルトラセブンの再放送をやっていて、ベガッサ星人の回を見た。ベガッサ星人は超巨大な宇宙船で、宇宙を旅しており、その制御回路が壊れて、地球とぶつかることがわかったので、地球に警告を与える。

「ちょっとの間、地球の軌道を変えてもらえないか」

結局、地球人の科学力は低レベルなので、軌道を変えることはできず、ベガッサの宇宙船を木っ端微塵にして難を逃れるという、救いのない話だ。ちょうど私が卒園する頃の放送なので、これを見たのだろう。地球の軌道を変えることさえできれば、ベガッサ星人も地球人も助かるのに、とでも思ったのだろうか。

さて、科学が開く未来に対し、比較的無垢な希望もっていた 1970 年の園児と、2007 年に生きる親父とでは、「科学技術」と「人々の幸福」との関係について多少考え方が違っていても不思議ではないだろう。

今の自分の夢に近いと思えるのは、池澤夏樹の「スタイル・ライフ」(1991 年) という小説の冒頭に出てくるテーマに、コンピュータを貢献させるというものだ。それは「山脈や、人や、染色工場や、セミ時雨などからなる外の世界」と、「きみの中にある広い世界」との間に連絡をつけることだ。小説では「たとえば、星を見るとかして」と書かれている。確かに世界と人との間に連絡をつけるのに、わざわざコンピュータを使うというのは、多くの場合ただ邪魔なだけかもしれない。

つい先日 UIST (ユーザインタフェースに関する代表的な国際会議の一つ) に出席して、実はユーザインタフェース (UI) 研究者の多くも、私と同じ方向を目指していると感じた。

以前から AI 研究者と UI 研究者は、近いテーマも多いのに、方向性が違うと思っていた。人から聞いた話によると、MIT の AI ラボとメディアラボも協調すること

は少ないという。その違いの一つとして、UI 研究者は、できるなら、世界と人の間に挟まったコンピュータを感じさせたくないと思っている。そのための研究やプロトタイプングに多くの時間をかける。例えばパーソナライズや、操作支援の研究には、知的と形容される何らかの情報処理を使っているのだが、お節介と有用な手助けとの微妙な境界に対する感受性の鋭さや、こだわりは相当強い。

たぶん最終的に目指すところは、スムーズにユーザの役に立つ知的な処理ということで、UI でも AI でも違いはないだろう。ただ私見では、AI 研究とは、コンピュータの知的レベル向上をまず優先するというアプローチであり、それに対し UI 研究とは人間の邪魔をする程度の知性しか備えることができないのなら、知性などいらないと考えるアプローチだと思っている。

UI 研究のそれなりの歴史の中で、UI 研究者達は、ユーザ自身が世界と関わることが重要であって、仕組みはそれを可能な限り透明に支えるべき、というイメージを共有しているように思える。

私は、大量のデジタルデータという媒介物を通して世界と人をつなぐ、それも UI 研究的に、なるべく人馬一体となれるよう連絡をつける方法を模索してきた。データを透かした先には例えば、送電鉄塔、送電線、タービン、変圧器、変電所、ダム、または南洋のマングローブ林がある。晴れたり曇ったり、雨が降ったり、アーク放電をしたりする世界がある。本当はその場に行って、ゆったりと環境にひたるのが (ひたりたいか?)、生物としての人間に最も慣れ親しんだ方法だろう。

ただ 2007 年に生きる私達には、自業自得ともいえる、急いで解決の道筋をつけないといけない問題がある。例えば地球表面が暖くなるのをどうやって避けるかとか、電気をずっと皆が安心して使い続けられるようにするにはどうすればよいのか、といった問題だ。そのためには、一人の人間が普通の一生で経験するよりもずっと広い世界の範囲を扱う必要がある。そこにコンピュータが必要とされる場所がある。

結局、私のやろうとしていることは地球の軌道を変えるのとは別の方法で、当時と同じようなことを目指しているのかもしれない。歳を重ねてもあまり変わらないものだ。

ただ普通には、せせらぎや、セミ時雨を聞いて、外の世界と、自分の中の世界との連絡をつけるほうが、ずっとよいだろうと思う。